



光は見えるか 上條陽子と パレスチナの子どもたち

6/29-7/23
2017 THU SUN

開館時間 9:30~18:30 (入館は18:00まで)
※ 金曜日は20:30まで (入館は20:00まで) ※最終日は18:30まで (入館は16:00まで)
休館日 7月3日(月)・10日(月)・18日(火)
料 算 料 一般500(400)円 大学生400(300)円・高校生以下無料
※()内は前売り、20名以上の団体料金
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳の交付を受けている方
及びその介助者は無料
※前売り券は、田川市美術館、ローソンチケット(Lコード81866)
セブンチケット取り扱い各店などにて販売

会 場 田川市美術館



光は見えるか 上條陽子と パレスチナの子どもたち

紛争、貧困、差別など様々な問題を抱えるパレスチナ。女性初の安井賞受賞作家として知られる上條陽子は、過酷な環境での生活を強いられるパレスチナ難民キャンプで、長年にわたり絵画指導を行ってきました。パレスチナとの出会いは1999年、パレスチナでの日本人作家による展覧会「東京からの七天使」に過ぎます。会期中に絵画教室を行ったことをきっかけに、子どもたちに作品制作の楽しさを伝える「パレスチナのハートアートプロジェクト」の活動を始めました。

本展では、上條が長年続けてきたパレスチナでの活動に焦点を当て、上條とパレスチナの子どもたちの作品を同時に紹介します。上條の作品はパレスチナを初めて訪れた1999年以降を中心とし、本展のために制作された作品も並びます。子どもたちの作品からは戦争をテーマにした社会問題を考えさせられるものや、つくる楽しさがあふれる色彩豊かなものなどをご覧いただけます。

生きること、自由であることとは何なのか、本展を通して私たちの世界の今、そして未来を見つめてみてください。

上條陽子（美術家）

1952年、神奈川県横浜市生まれ。
1978年、*「玄葉・河」*で第2回安井賞を受賞。
その後文化庁派遣芸術家在外研修員として1年間滞在。
1999年、パレスチナを訪れるきっかけとなった「東京からの七天使」展に参加。
2001年、「パレスチナアートプロジェクト」の活動開始。レバノンのパレスチナ難民キャンプで子どもの絵画指導を行う。



パレスチナについて

1948年、イスラエルの建国宣言を受けて勃発した第一次中東戦争で、70万人以上のパレスチナ人が故郷と家を失いました。それ以来、70年ものあいだ難民生活を強いられているパレスチナ難民は、約500万人に達し世界で最も大きな難民グループとなっています。彼らは貧困や差別だけでなく、市民権が得られないなど、就ける職業や学びの内容を制限されたり、様々な規制を受けながら生活しています。

2012年にパレスチナの国連へのオブザーバー加盟が正式に承認され、国連では「国家」としての存在を認められましたが、パレスチナの状況は大きな改善には至りません。



パレスチナの子どもたち



ワークショップ

「世界にひとつだけの帽子を作ろう！」

上條先生と展覧会を鑑賞し、その後、AVホールにて「世界にひとつだけの帽子」を紙やフェルトを使って作ります。

日 時：7月14日（土）13:30～16:00

会 場：AVホール

対 象：5歳～小学生

（※小学校3年生以下は保護者同伴となります。）

参加費：300円

定 員：先着25名程度

講 師：上條陽子（美術家）



申込締切日時：2017年6月1日（金）10時～

お電話のみで受け付けています。0947-42-6161

申込手数料は、参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号の情報をいたしました。

映画（関連作品）上映

「ぼくたちは見た —ガザ・サムニ家の子どもたち—」

（2011年／吉澤みゆ監督）

2008年から09年にかけてのイスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への攻撃。本作の監督であるジャーナリスト・吉澤みゆさんは、攻撃直後に現地に入り、300人以上の子どもたちが犠牲になっていたことに大きなショックを受け取材を始める。理不尽な運命の中で毎一杯に今日を生きる子どもたちの姿と暮らしを、子どもたち自身の言葉と絵で静かに描き出すドキュメンタリー。

日 時：7月15日（土）13:30～15:00

7月16日（日）13:30～15:00

会 場：AVホール

参加費：無料



◆映画上映料の事務手数料は不要ですが、別途観覧料が必要です。
◆座席指定は先着50席程度です。来場者多数の場合は立ち見になります。

